

大学における一般教育の本質と役割がいつたい何であるかは、大学の教育課程のなかに専門教育課程とならんで一般教育課程が設定されていらい現在までの十数年間ずっと論議を呼びつづけてきた問題である。しかし、それは論議を呼びつづも、ことごらの性質上たやすくは透徹をゆるさぬ根の深い問題であり、したがって一斑を見て全斑を見ないさまさまの異なる解釈の見解を発生させてきた。その間、一般教育に関しては授業内容や授業技術の面ではいろいろ研究もされ、その結果改善と発達もたらされたことは疑えない。だが、その本質と役割の確認およびそれに関連して一般教育の根本姿勢の確立という点では、きわめて不満足な状態にあるように思われる。

最近では文部省、大学基準協会、国立大学協会、私大連盟、私大協会および各大学自体においても大学教育の革新を意図する反省と研究の気運がより上つてきている。この事態は一般教育に関してはその本質と役割について一層深められた反省へ導く契機をつくりだしてきた。われわれは大学教

育に従事する者としてわれわれの課題研究は当然の責務だと思っているが、またそれが大学教育革新のために少しでも役立てば幸いであると考え、大いにはりきってやっているわけである。



大学における一般教育の本質と役割

中 桐 大 有

よび科学技術教育振興の要請、(三)人文主義的文化と科学的文化との交流の断絶—量化的認識と価値的認識のアンバランス現象、(四)大学進学者の激増現象、(五)社会的・知的風土と教育的伝統の異なる日本社会へアメリカ大学の教育システムをそのまま移入し、しかも五百数十大学のすべてが画一的にその教育システムを制服として着用におよんでいるという事態。

一般教育の本質と役割が何であるかの研究における問題意識の発生地盤には、つきのような諸事態があることを言っておきたい。(一)現代社会における諸学問分野の高度の分化と専門化の現象、(二)現代社会の高度産業化現象と、これに関連する科学教育お

われわれはこのような諸事態にどのように対処しなければならぬか——こういった設問についての研究討議のなから、一般教育のねらいとする人間像のどのようなものであるかを見出そうというのである。これまでもしばしば、一般教育の役割は人格形成、人間形成にあると言われてきた。われわれはそれを疑うものでないが、形成されるべき人格像、人間像の内容としてはどのようなものが必要であるのか。それは必ずしも明らかにされてはいないようである。われわれはいまこれを研究している段階にある。最終成果はなにかの形で公表されるであろう。(文学部教授・科学哲学)